

3月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比^{*}DI値の動き

2年3月のDI値は全8指標すべてが下落。また「売上高」と「収益状況」においては、先月に引き続き大幅なマイナスとなった。

2. 県内中小企業の景気の現状

生コンクリート業では引き続き出荷量が好調。また一部食品関係においてもスーパー関連は需要が良好であった様子。

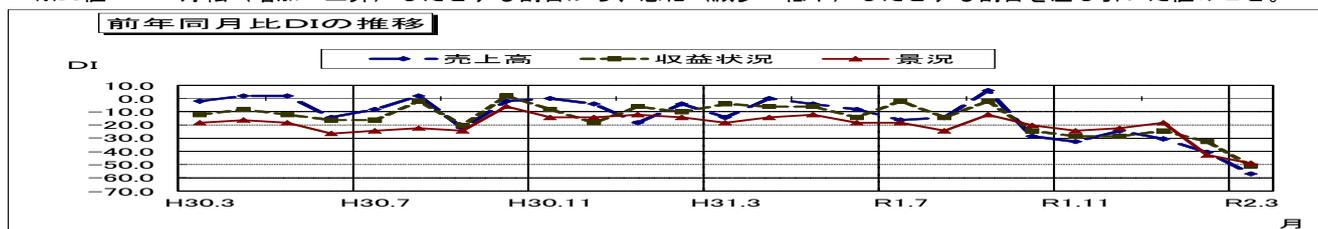
一方、技術者不足、人手不足など慢性化する労働力問題をはじめ、依然として原材料高も続いている。加えて、新型コロナウイルスの影響による資材の遅れや不足、客足、売上げの減少やイベントの中止など、今後の更なる影響を不安視する声が多く、業種から寄せられた。

景気は米中貿易摩擦や日韓関係の悪化など緊迫する国際情勢、また我が国をはじめ世界中で出口の見えない新型コロナウイルス問題など国内外経済の下振れリスクが顕著化してきており、景気の悪化が避けられない状況になっている。県内中小企業においても、今後の景気動向を警戒する必要がある。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

	H31 3月	4月	R1 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R2 1月	2月	3月	前月比 増減
景況	-18.4	-14.3	-12.2	-18.4	-18.4	-24.5	-12.2	-20.4	-24.5	-22.4	-18.4	-42.9	-49.0	-6.1
売上高	-14.3	0.0	-4.1	-8.2	-16.3	-14.3	6.1	-28.6	-32.7	-24.5	-30.6	-40.8	-57.1	-16.3
収益状況	-4.1	-6.1	-6.1	-14.3	-2.0	-14.3	-2.0	-24.5	-28.6	-28.6	-24.5	-32.7	-51.0	-18.3
販売価格	4.1	6.1	8.2	6.1	4.1	6.1	12.2	8.2	10.2	10.2	12.2	8.2	2.0	-6.2
取引条件	-4.1	-6.1	-6.1	-4.1	-2.0	-8.2	-6.1	-6.1	-8.2	-4.1	-4.1	-14.3	-20.4	-6.1
資金繰り	-8.2	-10.2	-6.1	-10.2	-8.2	-10.2	-4.1	-12.2	-12.2	-16.3	-18.4	-26.5	-32.7	-6.2
設備操業度	-4.1	-4.1	-4.1	-6.1	-6.1	-2.0	0.0	-8.2	-8.2	-4.1	-2.0	-8.2	-10.2	-2.0
雇用人員	-8.2	-14.3	-2.0	-8.2	-2.0	-2.0	-2.0	-6.1	-2.1	0.0	-2.0	-6.1	-12.2	-6.1

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味噌・前年同月比、みその生産量は103%出荷量は95.8%となった。みその生産量は増加、出荷量は減少となった。新型コロナウイルス感染の影響として業務用の味噌売上低下がみられる。ホテルや学校給食等への受注が激減しており、原料高のなか苦戦している。そのなか輸入米の長期（4月～6月）価格が政策的に値下がりした。しかし一時的であり持続性はない。
2. 漬物・漬物製造業ではコロナウイルスの影響で県外への出荷が大幅に減少している。スーパーマーケットへの出荷は良好である。先行きが読めないのが不安である。野菜は不足気味で値段が高騰している。生産農家は現在人参の取入れの最盛期であり価格の面でも好調である。
3. 醤油・新型コロナウイルスによる感染拡大が続く中、長引けばどのような影響が出て来るのか、大変心配をしている。

<繊維・同製品>

4. 縫製・新型コロナウイルスの影響は現在のところ弊社には見えないものの、今後においてどのようなマイナス影響が出るか予想がつかないため、先行きに対する漠然とした不安が広がっている。また長期化も安易に予想できるので、企業体力堅めに注力している。生産性については、昨年来及び新卒採用にて生産数量に対処、一方、新設備導入を順次進めて、生産性向上を計る予定である。3月は生産数量には変化なし。
5. 縫製・2月の景気関連報告にも書いたが、中国ウイルス（トランプ大統領いわく）の為に、日本を含めた世界各国の経済状況が大変なことになっているのが現状だ。例年なら、繊維業界はこの時期に大きく売上が伸び、生産は受注オーバーになるのが通常だったが、本年は工場閉鎖も考えなくてはならない経済状況になっている。営業努力をして受注を確保したいのだが、各商社は在宅勤務になり出社していない状況であり、小売店・百貨店は稼ぎ時の土日曜日が休みになって商品が全く売れていない状況である。得意先には来社しないように要請されている。金融関係においても、コロナ対策資金が出ているが、借入しても返さないといけないので、その返済資金の目処が立たないので借入はできない企業がある。組合では情けないが、雇用調整助成金を勉強して各企業に知らせるようにしている。政府の方でも、経済効果のある特別助成金等の施策を考え実行して貰いたい。

<木材・木製品>

6. 製材・3月までは厳しい中でも何とか持ちこたえたが、4月以降は新型コロナウイルスの影響で厳しくなることは間違いなく、住宅等における営業活動ができないため、終息後の経済回復も他産業に比べて遅れるのではないかと危惧している。
7. 木材・原木丸太入荷量は減少していて価格も弱含みの展開で各製材所、先不透明感多大にあり、買い控え、生産抑制の傾向が窺え、厳しく推移している。
8. 木材・やはり新型コロナウイルスの影響で住宅に必要な建材が入荷されないため、6月まで受注停止を行っている建材メーカーがある。いつまで続くのかわからない新型コロナウイルスの影響、耐え忍ぶしかない状態だ。
9. 製材・新型コロナウイルスの影響が徐々に始めている。

<印刷>

10. 印刷・3月も全体的に売上高や需要の減少傾向が続いている。年度末需要に伴う売上高の増加と需要の回復を期待するところだったが、新型コロナウイルスの影響でイベントは中止、学校関係でも混乱が続いている。新年度にかけてもゴールデンウィークまでほとんどの催しやイベントが中止となり、チラシ、ポスター、プログラム等の印刷がキャンセルとなっている。現在の状況はとても想像できなかった。更に長期戦になることは避けたいところだが、各地での封じ込め対策が功を奏する事に期待している。
11. 印刷・新型コロナウイルスの影響により、2月以降全てのイベントや会合が中止になり、それに伴う印刷物の発注がほぼ全てキャンセルとなっている。また、新学期に向けての販促ツール、春休み向けの旅行関連パンフ、飲食業界からの販促物の発注もほとんど止まってしまった。この状況が数か月続きそうであるが、我々中小企業はどこまで持ちこたえられるかわからない。県外ではもうすでに休業に入った会社、社員の自宅待機を始めた会社もあるようだ。早急に、またできるだけ簡潔な申請を認める公的支援が必要だと思われる。

<窯業・土石製品>

12. 生コン・3月は昨年同月と比較して約40%増加。やはり災害関連工事の需要が大きいです。また特需工事も順調に進み、年間出荷量は昨年度に比べて約30%増加した。
13. 生コン・3月の出荷数量は、対前年同月比2%微減であった。要因としては、出荷数量が前年同時期と比較して、官民工事での年度末の工期が順調に進んだことによる。今年度の出荷数量実績については、官民工事の新規受注増により前年を5.6%上回った。問題点としては、業界従事者の人材不足については依然として解消されていない。

<鉄鋼・金属>

14. 鉄 鋼・業況に大きな変化はないが、一部には、売上高、設備操業度の減少傾向が見受けられ、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響が出ている模様である。県内景気は、基調としては回復しているが、足下では新型コロナウイルス感染症の影響から一部では弱めの動きもみられていると言われており、今後、景気の下押し効果が強まる恐れがあり、その影響が懸念される場所である。
15. ステンレス・新型コロナウイルスの緊急事態宣言を受けて、国内でも営業活動等に影響が出始めている。終息の見通しが立たない状況続いており、更なる感染拡大や対応の長期化による世界経済の混乱が懸念される。

<一般機器>

16. 機械金属・売上高や引合いなど、一部で減少傾向が見られるものの、全体として、横ばい圏内の動きとなっており、景況感に大きな変化は見られない。しかしながら、米中の貿易摩擦をはじめ、新型コロナウイルス感染症のさらなる拡大が懸念されるなど、世界経済を巡る様々なリスクや不安材料から、将来に対する不透明感がますます強まりつつある。また、引き続き、熟練技術者をはじめ従業員の確保難、原材料価格その他の経費の増加、営業活動の停滞などが、直面する経営上の課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸売業>

17. 食糧卸・県内においては、食糧品の仮需は目立つことなく通常と思われる。

<小売業>

18. ショッピングセンター・3月の売上高の前年対比は全店計98.5%（既存店96.1%）、客数97.1%（既存店94.4%）だった。業種別には、住居127.8%、サービス95.5%、食品94.3%、身の回り83.9%、飲食78.7%、衣料品72.42%で、核店舗の食品売場は100.2%となっている。TV等で報道されているように新型コロナウイルスによる外出自粛でSMでのまとめ買いによるものだと考えられる。住居127.8%は3月いっぱい退店された店舗が閉店セールを行っていたことに因るものでコロナによる需要ではない。4月も3月と同じような傾向になると思われるが、当施設の関係者、買物客から感染者が出ないことを祈るばかりだ。徳島県も2人目、3人目の感染者が出て、小まめな行動履歴が報道されている。もし出たすれば施設・商品の消毒、営業の自粛等をやむを得ず実施しなければならない可能性がある。一刻も早くコロナ蔓延が収束することを願う。
19. 電気機器・新型コロナウイルスの影響により、個展・合展の自粛や訪問販売の自粛等で売上げは大きく減少している。物流面でも商品入荷が遅れている。
20. 量小売業・本来、3月は一般家庭の畳替えの多い時期だが、コロナの影響かほとんどなかった。新築現場が資材不足の影響が出始めている。全体的に活気がない。4月の見積現場もほとんどないようだ。

21. 機械器具・コロナウイルスの影響により在庫確保が困難になり、機会損失がある。
22. 各種商品小売業・ナショナルチェーンのテナントがコロナの影響で休業したため、全体売上げ減少の一部要因となった。県内の感染者数は少ないが、今後増えることがあれば、さらに売上げは減少することが予想される。

<商店街>

23. 徳島市・新型コロナウイルスの影響が大きい。そごうの北海道うまいもの大会も急に中止となり集客を期待していたので打撃は大きい。早期のコロナウイルスの収束を願うばかりだ。
24. 徳島市・飲食店が1店舗廃業したが、新しく開店する飲食店もあった。新型コロナウイルスの影響で例年より飲食店の集客数と売上が減少しているようだ。
25. 阿南市・引き続き、新型コロナウイルスの影響により客足減少。
26. 鳴門市・コロナウイルスのため、夜の営業を自粛したり、テイクアウトのみで営業される飲食店がでてきた。小売店は営業時間を短縮している店が多数ある。3月は売れる月だが、大きく売上げを落としている店がほとんどだと思う。コロナウイルスが落ち着いた平時に売上げを取り返せるような商品券などのイベントがあったらいいなと思っている。

<サービス業>

27. 土木建築業・道路管理課は橋梁（耐震・補修）の設計業務が去年より数倍多く発注予定。業務成果が上がり次第、工事発注となる予定。工務課はこの時期は発注準備および発注が主となり去年度と同じ程度である。猪ノ鼻道路も去年と同じ程度。工務・道管事業全体では、去年より業務が多く発注となり、つづいて工事が随時発注となる予定。交通対策課は、次年度の工事、業務の件数も去年と同じ程度である。次年度、電線共同溝工事が多く出そうだ。
28. 自動車販売整備業・登録車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比-12.4%の2,045台、中古車は-9.6%の549台、合計では-11.8%の2,594台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比-2.8%の1,646台、中古車1.6%の457台、合計は-1.9%の2,103台である。登録車・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比-7.6%の4,697台と減少。3月の販売台数はトータルで前年よりも7.6%ダウンという結果になった。新車、中古車合わせて軽自動車が1.9%減に対し、登録車は11.8%減という結果に。今年度は5年半ぶりの増税、そしてその売上の反動減の中、新型コロナウイルスによる影響を受けた激動の1年となった。収益情報について、目安となる継続検査の台数は登録車が8.6%減、軽自動車は1.7%減となってしまった。ただ、今年度末は新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として、車検の満了日が2月28日から3月31日までの自動車は4月30日まで車検証の有効期間を伸長することもできるため、これに該当する自動車の台数が減っているとも考えられる。技術者不足も慢性化している大きな課題であり、今年も業界としては厳しい1年であったように思う。
29. 旅行業・コロナの影響でキャンセルが多く、仕事がほとんど無いような状況になっている。コロナが収束しないことにはどうにもならない、お手上げ状態だ。

30. ビル管理・特に大きな変化はない。ただ近年、取引条件がほとんど変化しない中、最低賃金の引き上げが続いている。(H25年・666円→R1年・793円)。このような急激な最低賃金の引上げに伴う影響が徐々に現れて来ている。更に、働き方改革への対応、労働需給の逼迫、社会保険(厚生、健康)のあり方に関する動向等多くの課題に包まれている状況だ。加えて、急速に広がりを見せている新型コロナウイルス感染症が経営や物資(マスク、手袋、殺菌剤)の確保、業務遂行方法などに影響を与えている。特に、拡大回避による影響が顕著なホテル・イベント会場・大型小売店舗等の分野のメンテナンス業務(清掃業務)においては、事業の縮小による減収や従業員の休業補償などが重い課題となってきている。また、病院や高齢者利用施設等においては、設置者と連携し、細心の注意の下で業務を遂行している状況だ。
31. 広告業・コロナの影響でイベント中止が相次ぎ、イベント関係の看板制作、設営が軒並み悪化。

<建設業>

32. 建設業・新型コロナウイルスの影響で、民間建築工事の受注が減少している。(資材が入手困難なため、竣工時期がわからないため契約できない)公共工事においても、感染者発生の場合の工事の中止等の新型コロナウイルス対策が取られた。民間工事においても、請負儉約約款の解釈が示されて。
33. 電気工事業・新設住宅口数は208件であり、対前年比66.4%と減少した。
34. 板金工事業・新型コロナウイルスの感染が想像以上に広がると同時に板金業界にも被害は出てきている。住宅業界では住設備や各商材の欠品状態が続いているため、元受業者が着工出来ないところも出てきているので板金業界でも著しく現場は減っている。
35. 解体工事業・戸建住宅解体工事については県下全般に好調。公共工事については減少。新年度に期待。
36. 鉄骨・鉄筋工事業・少しずつコロナウイルスの影響が出始めているが、3月は前月とほぼ変わらない。

<運輸業>

37. 貨物運送業・新型コロナウイルスの影響で、特に飲食業に関するビール等の酒類、また自動車製造メーカーの工場一時休業等に伴う部品メーカーへの運送の稼働率が低下。食品製造等の業者での感染が出れば、即売上減につながるため戦々恐々としている。軽油単価は2月平均比、約11円の値下がり、前年度比、約4円の値下がりとなった。
38. 貨物運送業・新型コロナウイルスの影響により売上が減少している事業者が多い。また、関東など都市部からの帰り荷の確保が困難となっている。コロナウイルス関連の影響としては、荷物、帰り荷の減少、学校の休校に伴う従業員の休暇取得、荷主先、配送先でのマスク着用、検温、受取サインの拒否など、様々な手間が増えた。マスク、消毒用アルコールの確保ができず困っているなど。